

（午後4時00分 再開）

○議長（石橋英和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番7、7番 中西君。

〔7番（中西峰雄君）登壇〕

○7番（中西峰雄君） 今回の私の質問は3点であります。

1番、「縮小型社会、本市の現状認識と展望について」ということについて、お尋ねいたしたいと思います。

私どもの橋本市、あるいは私ども個人もそうですけども、単独で存在しているわけではなくて、大きな環境の中で存在をしております。大きくいいますと世界といいますか、地球といいますかの中にありますし、もっと大きく言えば宇宙なんですけど、まあそこまで行きません。少なくとも世界の中の、日本の中の、関西の中の、大阪の中の、大阪といいますか、近くの橋本市ということになるのかなというふうに思うわけです。

まず一つは、時代が大きく変動しておりますけれども、この日本の現在のアベノミクスといいますか、安倍総理になってからの、なるまでとなつてからの日本の現状をどのように見、あるいは展望をされているのかということ。もう一点は、やはり関西の凋落といいますか、ということが言われて、もう久しいわけですけども、この関西圏あるいは大阪経済というものをどう見られるか。

といいますのは、この橋本市、私どもの橋本市といいますのは、市歌には「生産立市」という言葉が出てきますけれども、原則的には大阪への通勤都市、衛星都市として旧の橋

本市は発展を見てきたところであります。高野口は確かに織物のまちとして生産立市であつたろうと思うんですけども、現状はなかなか衰退から盛り返すところまではいっていないというのが現状ですし、となつてきますと、橋本のほうは大きいわけですし、住宅衛星都市、住宅衛星都市というのは周辺の、あるいは大都市の景況あるいは盛衰に大きく影響を受けるわけです。そういう意味で、この関西経済、あるいは大阪の経済をどう踏まえているのかというようなことについても、嚆矢で主張願いたいなというふうに思います。

縮小型社会というときには、だいたい人口のことが言われます。人口は国立人口問題研究所ですか、あの資料を見れば出てくるわけですけども、このあたりも、先ほどの日本の国の全体が減っていく中で相対的にどうなんですかというのは、どういうふうに周辺の人口動態というものをご覧になっておられるのかというようなことをお尋ねいたしたいと思っております。

そういう本市を取り巻く時代の経済的、社会的環境を踏まえられて、今後の橋本市、私どものまちが歩むべき道は、どういうことを基本として歩いていけばいいとお考えなのかということをお尋ねいたしたいと思っております。

一つ、ここで愚痴を言いたいと思うんですけども、だいたい人は間違えることが多いんですが、本市も大きな時代の流れといいますか、変化を読み間違えたことがたくさん、大きく読み間違えたことがいくつかあります。それは、後世にずっとそれ、ひきずっていくんですね。影響を与えていきます。一つのい

い例が、皆さんもご存じのとおり、本市の水道代の高さの原因となっております。15万人の毎秒1tの取水権というようなこと。あるいは、もうそれ以上は言いませんけども、かなり大きな影響の読み間違えというのがありましたですね。ですから、大きな時代なりの、自分を取り巻いている環境をどう見て、どう対応していくのかということでは本当に重要などころだと思いますので、じっくりとお聞かせ願いたいなというふうに思っております。

2番目に行きます。

がんリスクスクリーニング「アミノインデックス」についてということで、アミノインデックスにつきましては、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、なかなか、まだまだ一般に知られているものではございませんので、簡単にご紹介をいたしたいと思っております。

これは、去る某メーカー、食品メーカーというんですかね、がアミノ酸の研究の中で見つけられたというか、つくられた試験、がんの検診方法です。人間の体のアミノ酸というのは20種類のアミノ酸でできているわけですが、そのアミノ酸の組成を分析することで、構成を調べることで、がんにかかっているかどうか、罹患率というんですか、がわかるというものであります。

これの利点がいくつかあります。一つは、大変簡便な検査であるということ。5cc、5mlの血液をとるだけで、男性であれば胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がんの4種類のがんのスクリーニングというのが、リスクのスクリーニングというのができます。女性はそれに加えて、前立腺がんはありませんけども子宮がん、子宮体がん、卵巣がんの検診もできると。検診と言ったら語弊がありますね。がんのリスクの判定ができるということで、1、2、3、4、5、6種類のがんのリスク判定ができる。

リスク判定はというふうになっているかといいますと、だいたい簡単にA、B、Cとランク分けいたします。ランク分けして、ランクAというのは、ほぼがんでない可能性が大変高いと。8割以上の方が、がんではないだろうというふうに言われています。だいたい一般の方ががんである割合というのは1,000分の1というふうに言われておまして、ランクAの場合は、それよりもずっと高い割合になっています。普通の人のがんである割合が1,000分の1だとしたら、例えば胃がんですと、ランクAは3,200分の1ですから、一般よりもずっとがんのリスクは低いとでも、がんじゃないというわけではないんですけどね。リスクは低いと。

ランクCは、これは98分の1なんですね。98人に1人の割合のがんのリスクがありますよということで10倍。普通の人10倍以上のリスクがあるということがわかるというものなんですね。これは、1回だいたい2万円ぐらいの費用がかかるわけです。

これを直ちに私は、市でどうの、補助を出してどうのこうのということは、全く言うつもりはありません。ここで聞きたいのは私は、このアミノインデックスによるがんリスクスクリーニングというのが、ある意味、有用性があるだろうというふうに個人的に思っております。先ほど利点を申し上げました簡単な検査であって、1回検査するだけで何種類も、4種類も6種類も検査ができるという利点プラス初期がんへの官能性が割に高いということがございます。ですので、まず一つは、本市健康課ですか、及び市民病院のほうで、このアミノインデックス検査というものをどう評価されているでしょうかということをお尋ねいたします。

2番目ですが、2番目は、これは自分、調べてわかってるんですが、市内でこの検査を

されている医療機関はありますか。なければ、市民病院でこの検査をできませんかということですか。

最後に、このアミノインデックス検査の受診をすることを、市として住民に勧めるということはいかがでしょうかということであります。

以上が2番であります。

3番に参ります。東家地内旧大和街道整備についてということで、これは同僚議員とダブっておるんですけども、昨年の予算委員会でしたか、私、当時の上下水道部長に、この下水道整備について検討していただけないでしょうかということをお願いしたことがありますけども、その前にも内々ではいろいろと言ってましたけども、もう早くから、一つはもうやりますよということになってるんですけども、答弁いただけてますのであれですが、なぜにこんなに遅くなってるんですかということも聞かせていただきたい。確かに困難な場所であるということはわかるんですけども、要望を受けてから随分と時間がかかってしまっているというのはどうしてなんでしょうかということをお尋ねいたしたいと思えます。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

**○議長（石橋英和君）** 7番 中西君の質問項目1、本市の現状認識と展望に関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

**○企画部長（北山茂樹君）** 縮小型社会、本市の現状認識と展望についてお答えします。

国立社会保障・人口問題研究所の試算によると、2010年（平成22年）の国勢調査における日本の総人口1億2,806万人を基準とし2040年（平成52年）の総人口は1億728万人

と1億人割れ寸前で、約16%の減少となるとされています。

昨年度、みずほ総合研究所から出されたレポートによりますと、東京圏、名古屋圏、大阪圏の3大都市圏のうち、大阪圏においてはこの人口減少傾向は特に顕著であり、最も厳しい状況であるとされています。本市においても、2040年の人口は4万7,992人で、2010年に比べ約28%減少する試算となっています。

人口の減少は、生産力の低下や地域コミュニティの衰退など「まちの活力」が低下するとともに、市民税など市の主な財源が減少することにつながります。

次に、経済環境についてですが、本年5月に内閣府から出された月例経済報告によると日本経済の現状として、「緩やかな回復基調は続いているが、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きも見られる」とし、また、先行きとして「今後緩やかな回復が期待されるも、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている」としています。

さらに、県内では和歌山県社会経済研究所が本年4月に発表した「景気動向調査」によると、4月から6月の県内企業の景況感は、1月から3月に比べ消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動を懸念し、より「弱気」な状況となっています。

これらから推察すると、アベノミクスが推進途中であるといえども、この成熟した日本経済が将来的に大幅な成長を見込めないことは明らかで、また、本市を取り巻く経済環境も、今後すぐに上向きになるものではないと考えます。

しかしながら、消費税増税による景気の下押し感はあるものの、一方では企業の設備投資は堅調で、今後さらなる国の経済対策に期待をしているところです。

このように、人口減少や景気の不透明感といった問題は、本市だけのものではないものの、今後の行財政運営に支障を来す可能性があり、看過できない問題です。

さて、議員おただしの「現状を踏まえて、今後の本市の歩むべき基本的なスタンス」ということですが、平成24年度末に策定した「橋本市長期総合計画後期基本計画」において、人口減少及びこれによる歳入減少対策については、「魅力向上施策」と「行政体力向上施策」の2本立てで取り組むこととしています。

具体的には、「魅力向上施策」は、子育て環境充実対策、健康長寿実現対策、地元雇用の創出対策、定住・移住人口対策の四つの対策で取り組むとし、橋本市が住みやすく愛着と誇りが持てるまちづくりを進め、また、地域資源を生かし、魅力を向上させ、人や企業に選ばれるまちをめざすこととしています。

また、「行政体力向上施策」は、市税など歳入の減少が行政サービスの低下や住民負担の増大につながるなどの懸念から、市民ニーズに応じた事業の選択や集中など、効率的・効果的な財政運営を進め、自立した財政基盤を築き、持続可能なまちをめざすこととしています。

本市は、昭和50年代後半に北部丘陵地帯を中心とする大規模住宅開発が進み、新しい住民を多数迎えました。鉄道交通の利便性もあり、主に大阪方面のベッドタウンとして栄え、現在も大阪方面へ通勤する方も少なくありません。

さきにも述べましたが、2040年の大阪圏の人口減少問題が深刻であることは、本市にも当然影響が及ぶこととなり、議員おただしの縮小型社会を現実の姿として受けとめる必要があると考えます。

しかしながら、国道371号バイパスの整備

や京奈和自動車道の延伸により、本市を取り巻く環境は変わりつつあることも事実です。

このことから、「橋本市長期総合計画後期基本計画」の「魅力向上施策」と「行政体力向上施策」を確実に実行しつつ、本市を取り巻く状況の変化を好機ととらえ、本市が持つ特性を生かしたまちづくりを進めていきたいと考えますので、今後ともご協力のほど、よろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君） 7番 中西君、再質問ありますか。

7番 中西君。

○7番（中西峰雄君） 答弁ありがとうございます。

一つは、関西といたしますか、大阪の経済の動向といたしますか、傾向といたしますか、あるいは人口動態についてどう見ていくんかということが、かなり大きな影響があると思えます。

確かに、本市を取り巻く環境として、京奈和自動車道であったり、国道371号のバイパスであったりとか、アクセスといたしますか、環境は変わりつつあるんですけども、しかし大きく関西圏ということではいいまして、全国的に占める地位というものがかかなり低下してしまっていると。現実には、総生産高でいいますと、大阪は東京の4割です。東京圏、関西圏ということではいいまして、東京の半分まで落ちてきております。

私のデータで、ちょっと調べさせていただいた中でいいますと、こんな数字もあるわけですね。愛知県がかなり、愛知、九州はかなり伸びてきているわけですけども、勢いからいいますと、愛知や九州に完全に負けるなということがよく言われます。具体的にいいますと、愛知県の総生産ですけども、西暦2000年には大阪の約85%だったんです。ところが、2010年、それから10年した2010年には、

大阪の97.4%まで上がってきておるんです。もうほぼ大阪に近い数字まで来ていると。これがそういうことでして、将来的にいいますと、大阪とほぼ、今もほぼ並んできていますと将来的にも、もう並ぶ状態が続くだろうと。ということは、大阪なり関西なりの勢いが他の大都市圏と比べて大変低いということが言えるわけです。

そして、人口の低下を緩和するといえますか、住みやすいまちにして入ってきていただくということなんですけども、人口のほうで先ほどお話しいただいた研究所のデータによりますと、この周辺人口もものすごく減っていくんですね。大阪自体も、おっしゃっていただいたように2040年まででいいますと16%ぐらいの減少になる。関東の、東京あるいは神奈川、埼玉とか千葉、この辺は約六、七%の減少でとどまっているのに対して、15%、17%という減少は京都、大阪、兵庫ということになっております。

それだけじゃなくて、実にこの沿線、河内長野、狭山、それから堺、このあたりもかなり大きな減少の幅を示しております。40年というのはかなり先の話なので、とりあえず今から約10年先の話をさせていただきますと、2025年のデータでいいますと、河内長野市はもう10万人を割りますですね。2025年の人口予測でいいますと、10万人を割って約9万8,000人弱になりますし、この伊都、伊都は恐ろしいですね。見るも恐ろしい数字ですね。約11年先には、かつらぎ町は1万5,000人を割ります。九度山町は3,600人強ですね。高野町が2,800人、五條市は、五條市も恐ろしいですね。2万6,793人というような数字になっています。

そんな中で、いずれにしても縮小、大きく日本の国も、それから関西といえますか、この私どもの沿線なり、伊都、町なりが減って

いく中で、私どもだけが特異例として減らないと、あるいは減少は極めて軽微であるということは大変考えにくいことなので、それに対して基本的なスタンスとして、いろんな施策、子育て支援であったり、若い人が入ってきてやすい施策を打っていくにしても、その財源の話、財源の話をする、またこれは財政の話に広がっていくわけですけども、どうやって生み出していくんかと。積極的なそういうサービスを提供し、施策を打っていくための財源の確保はどのようにお考えなんでしょうかということをお尋ねいたしたいと思います。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）まず、関西圏の経済についてということでお話がありましたが確かに関西圏といえますのが、かつて、今の現在の首都圏に匹敵するようなすごい経済規模で発展してきたということでございます。

ただ、その人口、それから企業の首都圏への一極集中というんですか、それが非常に進みまして、さらに、先ほど愛知県の話もありましたけども、中部圏への工場進出等々が非常に進みまして、大阪から離れていったということで、非常に経済的な地位が低下しておるというのが先ほど議員もおっしゃっていたかと思えます。その原因というのは、やっぱり首都圏等における人口集積、それから産業集積によるものでございまして、特に大阪圏は製造業中心ということになりますので、非常にその辺の大きな原因があるというように言われております。

で、大阪の需要構造といえますのが、外国からの外需に強い、依存しておるということで、さらに中小企業が占める割合が非常に多いという特色がございまして、最近では特に貿易主要国の中国との関係悪化等々によりまして、輸出減少それから観光客の減少などで

大阪経済の影響というのが非常に大きいものがございます。

当然、人口減少というのがございましたけれども、やっぱり経済活動をするには、人的資本というんですか、人口が少なくなれば非常に労働者不足に陥りまして、生産能力を失っていくということになってこようかと思いません。

人口につきましては、先ほど議員も質問あったわけでございますけれども、全国的な減少で、どこもかも、首都圏等々を除きまして、全国の自治体では人口減少が非常に進んでおるという状況の中で、本市もやっぱり当然ながら人口減少になると。ただ、人口減少であって、これはもう絶対人口が増加するということはあり得ません。どないもがいても橋本市の人口は増えるということにはございませんだが、人口減少の幅をできるだけ少なくして維持していくというのが非常に重要でございます、そのために橋本市が今取り組んでいるのが企業誘致ということになります。

企業誘致をすることによって、雇用を生み出していき、さらには若い人に橋本市に定住していただくという施策、それによりまして人口減少に伴う歳入減を、当然企業のほうの税収、それから雇用に対する、雇用していただくことによる税収増にできるだけ努めていくという考え方でございます。

で、今よりも税収が非常に増えるということは、あまり将来的にはならないと思えますけれども、できる限り歳入減を抑制する。人口の減少を抑制することによって、歳入減も抑制するという施策を打っていかねばならないのではないかと、かように思っております。

大阪圏と申しますのが、調べてみますと、人口 100 万人当たりの大学・短期大学の数というのは、首都圏それから中部圏に対して比

べますと非常に多い地域です。大阪圏というのは、というのは、何を言いたいかといいますと、大学とか短期大学があることによってより深い知識の習得というんですか、その辺の研究とかというのはできると思えますので関西圏ならではの、また大阪圏ならではの専門的な技術、それから知識を有する産業部門の集積というのは今後必要になってくるんではなからうかと、かように思っております。

以上です。

○議長（石橋英和君） 7番 中西君。

○7番（中西峰雄君） 実際の数字の話は、あまり細かくなり過ぎるのでここではしませんけど、話を聞いていると、できるだけ人を減らさずに、まあ減るんですけども、減るのを抑制するためにいろいろと取り組んでいきますよと。企業誘致もそうですよということだと思んですけども、財政でわかるように、言わなくてもわかってると思んですけども今後、扶助費を中心に必要なお金が減ることはないわけで、その中でいわゆる政策的、今回新市長になられてコストのかかる政策的なお話も出てきておりますけども、そういう政策的にコストのかかることをやっつけていけるだけの財政運営というものは、逆に言うところでは可能であるというふうに判断をされているのかなと。

つまり、私が以前に質問をさせていただいたときには、しばらくの間は経常収支比率はほぼ 100 前後で終始いたしますよというお話でございました。その中で、この縮小型社会に対応するだけの、一つの身の丈に合った行政の体制を頑張ってつくっていかないと、なかなか経常収支、必要なお金を右から左に出すだけで終わってしまうような形に将来的になるおそれはないんでしょうかということなんですよね。しつこいですが。

○議長（石橋英和君） 企画部長。

○企画部長（北山茂樹 君）確かに今の施策、実施している施策をそのままにして、新たに平木市長が新しい政策をどんどんしていくということになれば、当然のことながら財源不足ということが生じてまいります。

一つの事例でいいますと、中学生医療でございませぬども、中学生医療費にも今後3,000万円ほどというお話があったんですけども、それもこども園化による経費削減策をもって財源を生み出していくというようなこと、そういうことの繰り返しですね。要は今の事業、施策を、やはり見直せるところは見直し、民間でできるところは民間でというような基本的な考え方に立って、できるだけコストを削減して、そのコスト削減分で新たな政策を打っていく。ただ、気をつけなければいけませんのが、それ以上に施策を打っていくということになりますと、確かに財源不足というのは出ますので、その辺も十分精査しながら財政運営を行っていく必要があるかとかように思っております。

○議長（石橋英和君）7番 中西君。

○7番（中西峰雄 君）このくらいで、いくら議論しておいても切りがないのでやめたいと思います。

ありがとうございました。

2番に移らせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、アミノインデックスに関する質問に対する答弁を求めます。

病院長。

〔病院長（山本勝廣君）登壇〕

○病院長（山本勝廣 君）はじめに、アミノインデックス検査と当院における当該検査に対する評価についてお答えいたします。

アミノインデックス検査とは、血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである

人のアミノ酸濃度のバランスの違いを統計的に解析することで、がん罹患しているリスクを予測する新しい検査です。この検査は、あくまでもリスクを予測する検査であり、がんであるかどうかを確定するものではなく、現状としては検査の効果が確立しておらず、厚生労働省においても保険適用となっております。

しかしながら、全国的に検診として取り扱っている医療機関も増えてきており、将来的に検査の効果が確立され、厚生労働省において保険適用となれば、当然、診療現場においても実施すべき検査であると考えております。

次に、当該検査の実施の可能性について、まず、先ほども申し上げましたが、当該検査は保険適用となっていないため、診療現場では当該検査は実施できません。しかし、健康診断の一つとして検査を実施することは可能であり、この場合、院内検査室で検査を実施することができないため、当該検査が実施可能である検査会社と契約すれば当院健診センターで取り扱うことは可能となります。

これまで、当院健診センターで実施したことはありませんが、当該検査を希望される場合は、当該検査に係る費用は自費扱いとなり検査結果が出るまでに10日から2週間程度の時間を要することをご了承願います。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（石橋章弘君）登壇〕

○健康福祉部長（石橋章弘 君）がんリスクスクリーニング「アミノインデックス」についてお答えします。

先ほど病院長が答弁したとおり、血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度バランスの違いを解析するアミノインデックス検査は、がんである可能性を予測するもので、1回5ccの採血によって男性は胃がん・肺がん・大腸がん・前立

腺がん、女性は胃がん・肺がん・大腸がん・子宮がん・卵巣がん・乳がんといった複数のがんリスクが、採血1本でわかると言われて

います。  
また、この検査は、専門医療機関での臨床研究を経て、平成23年から商品として一般臨床の現場に紹介され、一部の医療機関で人間ドッグのオプション検査などで実施されていますが、導入されてからまだ日も浅く、あくまでも受診時点でのがんであるリスクを統計的に解析するもので、確定診断ではありません。がん自体を見つける一般的な検診と併用することにより、がんを見つける可能性が高くなると言われています。

ただし、現在の検査費用は、検査機関によっても違いがありますが、1回当たり概ね1万8,000円から3万円とやや高額です。

本市におけるがん検診事業は、健康増進法に基づく健康増進事業として位置付けられ、国の「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」に基づいて、胃がん検診・子宮頸がん検診・肺がん検診・乳がん検診・大腸がん検診を実施しています。

おただしのアミノインデックス検査は、国の指針に明記されていませんので、今後の国の動向や他の自治体の実施状況を見ながら、また、リスク判定の有効性などについて、医師会などの専門的な意見を参考にしながら、調査検討を行いたいと考えており、現状ではアミノインデックス検査を市として評価するには至っていません。

2番目のおただしの、アミノインデックス検査によるがんリスクスクリーニングを実施している医療機関の有無については、本市内での実施医療機関はありません。

4番目の、アミノインデックス受診の啓発については、市としてアミノインデックス検査を積極的に推奨することになった時点で啓

発を進めますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（石橋英和君） 7番 中西君、再質問ありますか。

7番 中西君。

○7番（中西峰雄君） 病院長にお尋ねしたいんですけども、このアミノインデックス検査が、がんを確定的に診断する検査でないということは私も存じておるわけですけども、このアミノインデックス検査の有効性といえますか、有益性というものについて、院長個人としてはどういうふうにお考えか、病院としてですね、市民病院としてどう評価されますか。評価に至らないという、今、健康福祉部長のほうからいただきましたけども、市民病院の見解としても、院長の見解としても、まだこれは評価するに至らないということによろしいのでしょうか。

それと、もう一つは、診療現場ではできないけども、健診センターで健康診断として業者に来ていただければできるけれども云々というご説明いただいたんですけども、保険適用ではないので診療現場では使えないというところがちょっとわかりにくいので、どうということなのか、もう少し詳しくご説明をお願いしたいなと思います。

お願いいたします。

○議長（石橋英和君） 病院長。

○病院長（山本勝廣君） 最初のお話ですが、アミノインデックススコアに関しては、先ほどから述べられてますが、A、B、Cというランク付けがございますよね。Cが一応インデックスの値が高いということですが、例えば、男性の肺がんの患者さんの場合ランクCであってもがんとは限らないと。逆に、男性の健常者の5%がランクCになるとそういうようなデータを一応見ております。逆に、ランクAであってもがんは否定できる



のかというと、がんの可能性もあるということで、結局、その一つの検査だけでは確定診断はできないということで、いかにその検査を組み合わせるかということになるかと思えます。

私も、同時にこの検査もすることができるのであれば、よりがんの発見率を高めることができるので、いいかと思えます。

先ほどからの財政のお話がありましたけれども、どこにお金を使うかと、そういう考え方によるかとは思いますが、そういったことで、この問題とは違いますが、例えば、去年ここで問題になりましたけど、ABC検診というのがありましたけども、つまり、ヘリコバクターは胃がんの原因になると言われていますが、採血でヘリコバクターに感染しているかどうかを調べても、それだけでは全ての胃がんを、がんの診断をすることはできないと同じように、カメラも必要だとかいうことがありますので、この検査をどういうふうに評価するというのは、今の段階では私としては難しいのかなと、そういうふうに考えています。

2番目のご質問ですけども、これは採血をしまして、当院の検査室でまず血液を処理します。処理をして、それで凍結して、それを業者をお願いするという形になるので、健診センターで、いわゆる例えばがんの腫瘍マーカーを健診センターの項目の中に入れるように、この検査も健診センターのがんの項目に入れることは可能です。

そういうようなことでよろしいでしょうか。

○議長（石橋英和君）7番 中西君。

○7番（中西峰雄君）この検査だけでがんの有無を確定はできないということは、重々私もわかっております。ただ、例えばほかの検査でも、ごく初期、初期がんの場合には、どの検査をされても、胃カメラをされても、あ

るいはPETをされても、見逃しというものはあり得る話なんですよね。だから、その程度問題かなというところもあります。

とにかく、この検査は大変簡便にできて、何種類ものがんの、特に初期への官能性がかなりいいということで、それでランクが悪い場合に、精密に検査をしていくという2段階のことが、初期発見そして初期治療につながるっていくのかなというふうに私は考えております。

それで、あまり時間もないんですけども、健診センターではできるということなんですけど、業者と契約すればできるということですが、それを業者と契約して健診センターで受けられるようにはしていただけないんでしょうか。

○議長（石橋英和君）病院長。

○病院長（山本勝廣君）病気ということだと診療報酬で保険が使えらる。ただし、病気かどうかわからない人を調べるというのが健診センターでございますので、そこでは保険が使えない。そういうところでは、この検査を、保険を通さないということで使用することができますので、例えば、市民病院でアミノインデックス検査を始めましたとホームページに掲載して募ることは可能でございます。

○議長（石橋英和君）7番 中西君。

○7番（中西峰雄君）可能なのはわかりましたけども、それを実施していただけないでしょうかということなんです。することはできますよ。でも、しませんよということなのか、いや、前向きにちょっと考えてみましょうということなのかね。

それと、このアミノインデックス検査をすることによって、ほかの検査にもつながっていくということもあり得るのかなというふうにも思いますし、市民病院がこういう特殊な検査をしているということが、一つの、患者

さんといえますか、一般の方にとって、遡及をしていくものになる可能性もあるのかなというふうに思いますので、要するに、できますよはわかりました。それをしていただけますでしょうかということなんです。

○議長（石橋英和君） 病院長。

○病院長（山本勝廣君） がんの検診をする際に、どの検査を採用していくかですね。先ほど申しましたように、ヘリコバクターの採血をするのか、あるいはアミノインデックスをするのか、さらには最近では遺伝子を血液で調べることによって、より精度が高いがんを検出するということもできるようになってきます。ですから、それを市民病院でどれを採用していくか、その辺のところの議論というのが必要かなと思いますので、院内で検討してそういった何を主要にするのが一番費用対効果があって、住民の皆さん方に役に立つのかということを検討して、今後、その一番いいと思うものを採用していきたいと思います。

○議長（石橋英和君） 7番 中西君。

○7番（中西峰雄君） ということは、一応検討はしてみましようかという程度の受けとめ方でよろしいんですね。

保険がきかないということもありますし、高額ですけど2万円かかりますので、高いと思いますが、ちょっと聞くところによりますと、胃がん検診一つで、バリウムを飲んでレントゲン写真を撮ったりとか、胃カメラをするだけで1万5,000円の費用がかかっているというふうにもお聞きします。そうしますとこの4種類、6種類の、確定ではないですけどもスクリーニングができて2万円程度ということであれば、決して高くないのかなというふうにも思います。

それで、一応市のほうも、再度市民病院のほうでも、この検査が受けられるようにだけでもしていただければありがたいなというふ

うに思います。

3番に移らせていただきたいと思います。

○議長（石橋英和君） 議長より申し上げます。本日の会議時間は、議事の都合によりあらかじめこれを延長します。

次に、質問項目3、東家地内の旧大和街道整備に関する質問に対する答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長（塙阪 隆君）登壇〕

○建設部長（塙阪 隆君） 東家地内旧大和街道整備についてお答えします。

さきの14番議員のご質問の際にも答弁させていただきましたが、東家区の舗装等の整備については、平成11年度より東家区にて本格的に始まった公共下水道整備と調整しながら事業を進めており、旧大和街道（市道本町市脇線）については、旧橋本小学校北門付近から西側について、平成17年度の公共下水道工事の中で舗装の打ち替えを実施しました。

東側区間の公共下水道についても、近々で整備が計画されていますので、その工事の中で舗装の打ち替えを行う予定です。

○議長（石橋英和君） 上下水道部長。

〔上下水道部長（大倉一郎君）登壇〕

○上下水道部長（大倉一郎君） 東家地内における市道本町市脇線（旧大和街道）への下水道整備についてお答えします。

東家地内の上下水道整備については、14番議員にお答えしたとおり、市道本町市脇線（旧大和街道）施行延長約309mについては、平成27年度に現地調査及び詳細設計を行い、平成28年度より管渠敷設工事を3カ年で行う予定です。なお、工事にあたっては道路幅員も狭隘な上、通学路でもあり、営業店舗や集合住宅、駐車場などもあることから、施行年度計画や施行方法等の詳細について、今後地元の皆さまと協議を進めていきたいと考えています。

また、下水道工事施行に伴い、上水道間の布設替えも同時に施行するとともに、舗装についても、上下水道管理設後、全面的に新設舗装を行う予定です。

○議長（石橋英和君） 7番 中西君、再質問ありますか。

7番 中西君。

○7番（中西峰雄君）整備していただけないということで、ありがとうございます。よろしく願いいたします。

私、壇上でもお聞きしたんですよね。これ大分前から要望は出て、もう入れられる、本管は通ってましたので、下のほうは、国道のほうはですね、もっと早く施行できたはずなんじゃないかなと思うんですが、なぜこんなに遅くなって整備ということになったのかということは、ちょっとよくわからないんですが。

○議長（石橋英和君） 上下水道部長。

○上下水道部長（大倉一郎君）今、議員のご質問でございますけども、平成21年度に区長から、大和街道、今未整備のところの要望は平成21年度に要望を受けておりました。それから、今回なぜ遅くなっているかというようなことのご質問でございますけども、この道路の中には、縦断的な大きな水路、石垣の水路があるということで、人が入って管理できるような水路があるというのが1点と、その道が狭い中にNTTの地下ケーブル管も埋設されております。また、水道管も埋設されております。

それと、ちょうど先ほど説明した石垣の水

路の北型部分、東西に流れる水路の北側の宅地側、民地側でございますけども、水路と宅地側の民地の境界も目いっぱい水路の際に家が建っておるといようなことから、下水道工事にあたっては、水路の工事も並行に行う必要があるのではないかとというようなことから、非常に計画が遅くなってきたといようなことでございます。

建設部のほうから、再度水路のほうの調査をいただいたわけでございますけども、現在のところ、水路については改修をせずに下水道管が埋設できる状態であるといようなことで報告をいただきまして、今回、計画に入ったといことでございます。

以上です。

○議長（石橋英和君） よろしいですか。

○7番（中西峰雄君） 終わります。

○議長（石橋英和君） 7番 中西君の一般質問は終わりました。

---

○議長（石橋英和君） お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会し、明6月17日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思っております。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（石橋英和君） ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後4時59分 延会）